

普及項目	増殖
漁業種類等	採貝漁業
対象魚類	アサリ
対象海域	八代海

金剛地区覆砂漁場でのアサリ生残・成長把握と被覆網の管理手法開発 県南広域本部水産課・梅山 昌伸

【背景・目的】

不知火地区のアサリ資源は、大量降雨とホトトギスガイ（以下「イガイ」と言う。）の異常発生により、壊滅的な打撃を受けたため、県は同海域で覆砂事業に着手した。

今回は、初期着底から生産サイズまでの成長・生残に注目し、平成31年（2019年）3月に設置した被覆網の適正管理による生残率向上と資源再生産機構の回復を目的とした。

【普及の内容・特徴】

- (1) 稚貝着底状況調査：平成31年（2019年）3月22日、6月5日、7月30日に坪刈り調査を実施した。坪刈りには10×10cmの方形枠を用い、表面から10cm程度を採泥し1.0mm又は1.2mmメッシュで篩い試料とし、覆砂漁場内の㎡当たりの出現個数に換算するとともに、殻長を測定してヒストグラムの推移を確認した。
- (2) 被覆網等の適正管理指導：金剛地区の覆砂漁場に、郡築・八千杷地区と同様に被覆網を干潟面に密着させ設置したが、6月5日の調査時にはイガイマット（以下「マット」と言う。）が被覆網を基質として上下に形成され、網の管理が出来なくなってしまった。また、7月30日には降雨の影響からかマットは流失したが、被覆網の下にマットが残りアサリをへい死させてしまった。

【成果・活用】

- (1) 稚貝着底状況調査：金剛地区の出現個体は、3月22日の調査では、平均出現個体数2,920個/㎡、平均殻長6.01mm、6月5日では6,025個/㎡、8.71mm、7月30日は1,725個/㎡、17.43mmであった。殻長のヒストグラムは図1のとおりで、6月から7月にかけての梅雨時期の成長の早さと生残率低下が確認された。これは、マットに絡まれていたアサリもイガイと同時に流失したためと思われる。
- (2) 被覆網設置指導：マット形成が顕著だと、被覆網の管理が難しくなることが確認されたため、食害防止機能は維持したまま、潮流や波浪等で網が浮動し、干潟面へのマットの形成を防止するため、固定位置を干潟面から少し浮かし、浮子のペットボトルを大きくする等により、網が埋没しない工夫をするよう指導した。

当初、耕うんの併用を考えていたが、マットが固着した状態での網の取り外しが不可能なことが分かったため、漁業者と協議し、一案として令和2年度から上記によるマット形成防止に取り組むこととなった。

2019年度金剛地区覆砂漁場アサリ稚貝出現結果

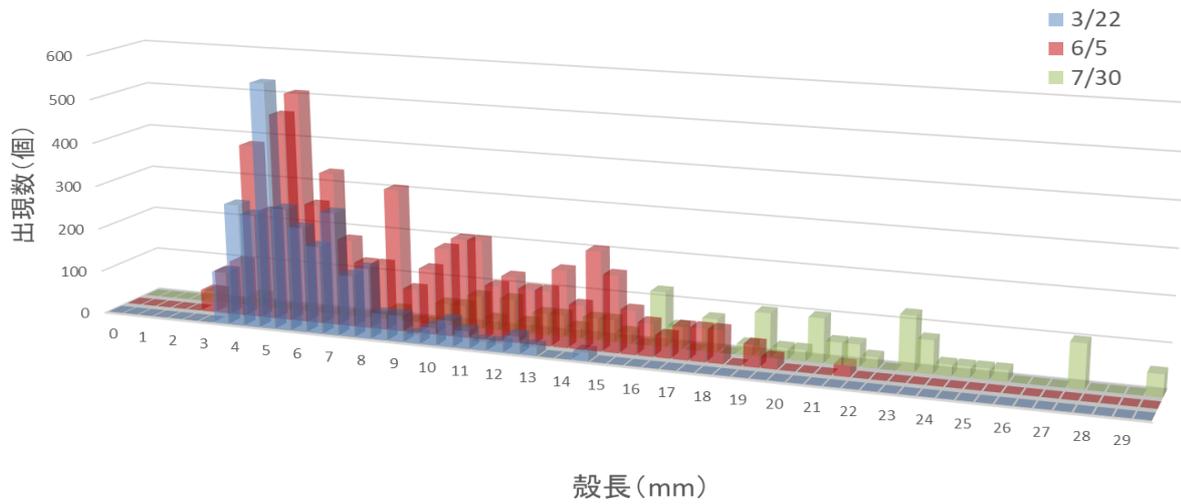


図1 金剛地先のアサリ殻長組成



図2 3/22 被覆網設置



図3 5/21 アオリとマットの固着



図4 6/5 イガイマットの拡大



図5 6/5 マット内のアサリ



図6 7/30 マットの消失した漁場

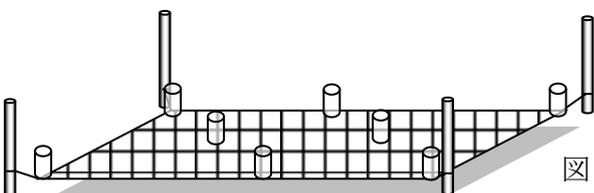


図7 被覆網の改良イメージ